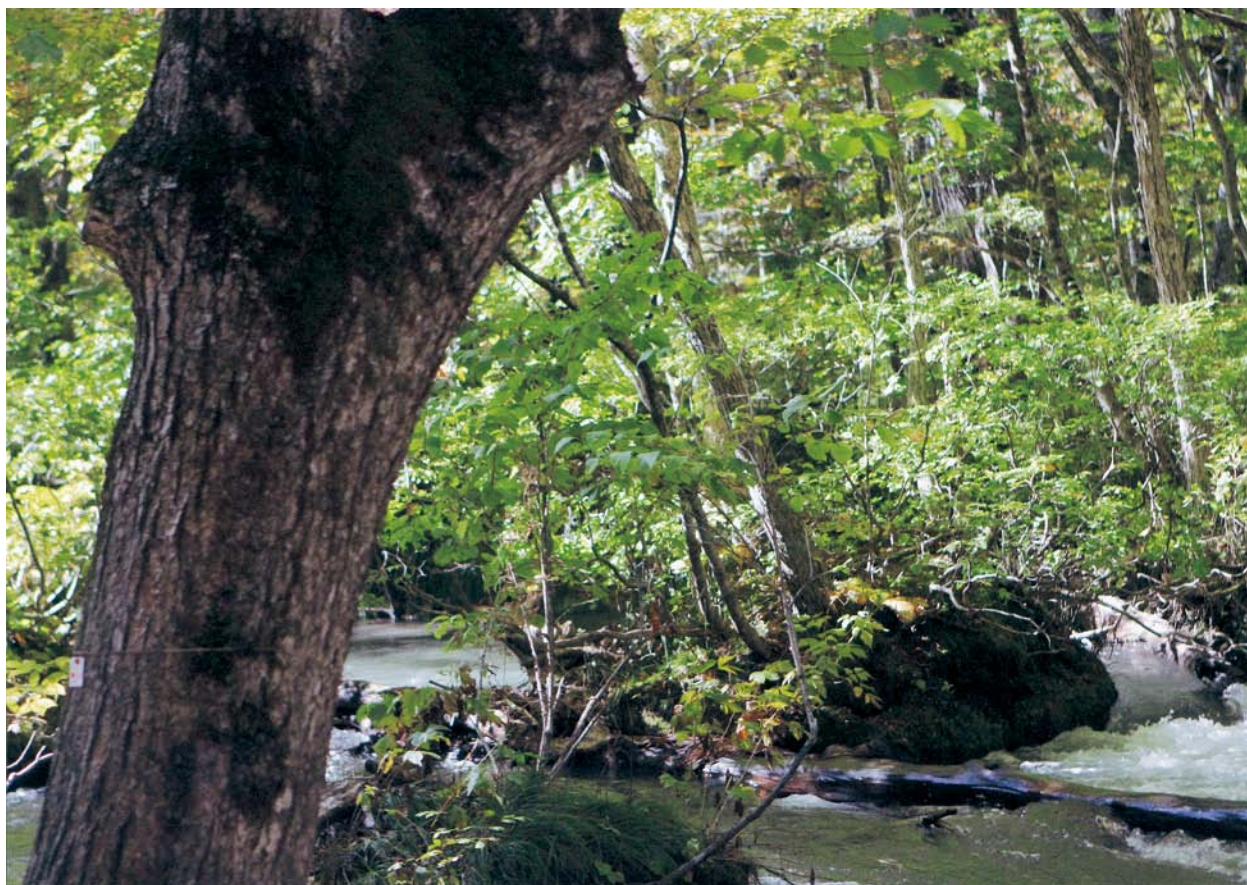


福 井 県 医 師 会

だより

第648号 平成27年(2015)6月



奥入瀬の春 福井市 吉村 信

表紙写真説明：奥入瀬の春

福井市 吉村 信

北国の春は遅い。雪が溶けると一気に春が押し寄せ、桜、辛夷、林檎、木蓮などが一斉に花開く。奥入瀬では、ブナ林に若葉が芽吹き、雪溶けで増水したせせらぎはその音を高める。早春の清澄な空気と小鳥の囀りは心をリフレッシュさせてくれる。

雪溶けて 大瑠璃唄う ブナの森

醫 縫 録

ふくいメディカルネットの歩み

総務担当理事 末松 哲 男



平成22年7月福井県と福井県医師会は県全体で患者さんを診る“ふくいメディカルネット”を構築するため地域医療連携システム構築検討委員会を立ち上げ、システムが持続運用可能とするために、使いやすく、有用でかつ運用費用が安いシステムを構築すべく検討してきました。平成24年9月に「ふくい医療情報連携システム運営協議会」を設立し、平成26年4月本運用を開始しました。その時の情報開示病院は14病院、閲覧医療機関は170医療機関であり、当初の想定を越す多くの参加をいただきました。OSや端末を統一したこともあり、サポートセンターへの問い合わせは少なく、大きな問題なくスムーズにスタートすることが出来ました。

本システムは福井県全域を対象としており、1画面で全ての開示病院の診療情報を時系列で閲覧できるものであり、全国で初めての試みでした。本システムにて患者さんは県内のどこに住んでいても、どの病院に転院しても切れ目のない医療を受けることができ、福井県内で安全、安心な医療を受けることが出来るようになりました。

情報連携方式としてはセキュリティなどの観点から分散型（各情報開示病院が連携用データを保管）を採用し、中間にデータセンタ（最小の患者紐付け用のデータ）を置き、それを介して閲覧医療機関が情報開示病院のデータを参照するシステムとしました。一部双方向性の情報交換も可能としました。情報開示病院とデータセンタ間を専用の閉域ネットワーク（IP-VPN網）で、またデータセンタと閲覧医療機関間をセキュリティが高い接続方式（IPSec+IKE）で接続し、セキュリティ強度を高めました。さらにログインセキュリティについては、利用者ID+パスワード+機器認証を採用し高いセキュリティを保つことが出来ました。

また、医療情報共有のため地域共通の患者IDを用いました。情報開示病院のIT化は病院毎に異なるシステムが構築されているため、他病院と連携ができるように医療情報を加工・作成するためのSS-MIX 2標準化ストレージを採

用し、福井県全体で医療情報の共有ができる仕組みにしました。また厚生労働省標準規格については、電子カルテはHL 7、医療におけるデジタル画像と通信はDICOM規格、対応標準病名マスターはICD10を用いました。

参加の同意取得方法については、連携施設を受診の際に連携施設に対して同意をする方式にしました。

運用開始後本システム上の登録人数は順調に増加し、1年間で5,000人を超えています。参加医療機関の先生方のおかげでこの登録数およびアクセス数は他県のシステムと比べても多くなっています。

また昨年度の事業として、福井県薬剤師会様の多大なご協力の下で22保険薬局に新たに参加していただきました。また8医療機関の追加募集を行い、その結果閲覧機関数は200となり、今後ますます登録数およびアクセス数が増加していくことが期待されます。

“ふくいメディカルネット”の機能としては、①Web紹介状、②診療情報の共有（カルテ情報、検査結果、処方、注射、心電図、退院サマリ、内視鏡レポート、超音波レポート）、③画像連携（参照、ダウンロード）、④情報交換（メール機能、患者メモ）、⑤地域連携パス、⑥検査予約参照機能、⑦チーム機能などがあります。

本システム導入のメリットとして、従来に比し患者さんの情報が多くなり病状の把握が容易になる、文字情報と異なり画像などで理解度が格段に深まる、診断過程がわかり疾患の勉強になるなどがあり、患者さんのQOL向上に大変役立っています。重複検査の軽減にも役立っています。

今後在宅チーム連携や救急医療などへの展開も検討して参りますので、今後とも先生方のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。